

ビ

ー

だ

ま

ビーだまのように、キラリと光る一冊を

2016年1月～12月に発行された本の中から、とくにおすすめの本を紹介します

<編集・発行> 富山市立図書館 富山市西町5番1号
電話 076-461-3200
平成29年4月23日発行（年1回発行）

小やぎのかんむり

市川朔久子／著 講談社



夏芽^{なつめ}は、すぐに声を荒げる父が苦手だ。父と衝突^{しょうとつ}した夏芽は、夏季合宿への参加を決めて逃げるように家を飛び出す。

「お寺でサマーステイ」と題した合宿の場所は、想像以上の田舎で、参加者は夏芽だけ。不安に思うなか、虐待^{ぎやくたい}を受け寺に預けられた雷太^{らいた}や、地元の高校に通う葉介^{ようすけ}、葉介が世話するヤギたちと過ごすことになる。寺の大人たちやヤギに囲まれ、少しずつ元気になる雷太を見るうち、夏芽は家族や自分自身の問題と向き合う勇気を得ていく。

夜間中学へようこそ

山本悦子／作 岩崎書店



優^{ゆう}菜のおばあちゃんが、ある日突然「わたしも中学校に通う」と宣言した。学校での人間関係で憂^{ゆう}うつになっている優菜とは反対に、おばあちゃんは毎日楽しそうだ。

ところが、おばあちゃんがケガをしてしまい、優菜はしばらく学校へ付き添うことになる。はじめて足を踏み入れた夜間中学は、自分の知っている「中学校」とはちがい、大人や子ども、外国人と一緒に学んでいた。

いい人ランキング

吉野万理子／著 あすなる書房

桃^{もも}のクラスで「いい人ランキング」を行うことになった。桃はお人好しで、頼まれごとは断らず、人の悪口を言うこともない。1位にはクラスの中心人物が選ばれると思っていたのに、自分が選ばれてしまい戸惑いを隠せない。

それ以来、クラスメイトの態度が変化した。常に「いい人」を求められ、雑用や買い物を押し付けられるようになった。そのうち、桃は、これはいじめではないかと気付く。



メディチ家の紋章 上・下

テリーザ・ブレスリン／作 金原瑞人、秋川久美子／訳 小峰書店

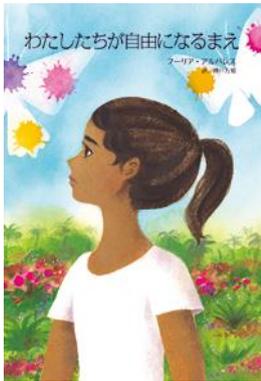


16世紀始め、イタリアではメディチ家が大きな権力を持っていた。身寄りのない少年マッテオは、メディチ家のある秘密^{にぎ}を握ってしまう。秘密を狙う男から命がけで逃げていたところ、芸術家として大成功をおさめていたレオナルド・ダ・ヴィンチの保護を受けることになる。

はじめは途中で逃げ出すつもりでダ・ヴィンチと行動を共にしていたが、マッテオは次第にその才能に惹^ひかれていく。

わたしたちが自由になるまえ

フーリア・アルバレス／著 神戸万知／訳 ゴブリン書房



1960年代初め、ドミニカ共和国は独裁政権下にあった。トルヒーヨ大統領が30年以上国を支配し、国民は反抗すると捕らえられたり、殺されたりした。アニータの親戚は自由を求め、次々にアメリカへと渡っていく。

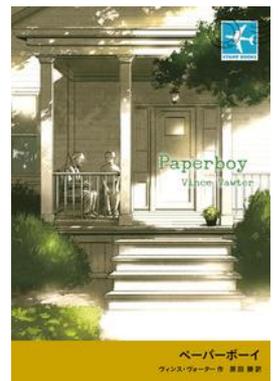
アニータは大統領を尊敬していたが、自宅に警察が押しかけるようになると、自国の不自由さに気が付く。一家は、政府に反抗の兆^{きざ}しがあると目を付けられたのだった。

ペーパーボーイ

ヴィンス・ヴォーター／作 原田勝／訳 岩波書店

吃音症^{きつおんしょう}のヴィクターは、言葉がつかえてしまい、言いたいことを半分も伝えられないでいる。

夏休み、ヴィクターは新聞配達をすることになった。配達先で緊張しすぎて意識を失ってしまったが、介抱してくれたスピロさんと親しくなり、配達の後のおしゃべりが楽しみになる。自分を特別視しないスピロさんは特別な存在になり、ヴィクターは心に秘めた「詩」を聞いてもらう決意をする。



スピニー通りの秘密の絵

L.M. フィッツジェラルド／著 千葉茂樹／訳 あすなる書房



「卵の下を探すんだ」という謎の言葉を残して、祖父は息を引き取った。

セオが祖父のアトリエを整理していると、祖父が大切にしていた絵画が目に入る。その絵画は、もとの絵の上に新たな絵が描かれたものだった。祖父はなぜ絵を塗り重ねたのか、「卵の下」とは何なのか。セオは友達^ぬのボーディと、絵画の秘密を探り始めた。

世界を7で数えたら

ホリー・ゴールドバーグ・スローン／作 三辺律子／訳 小学館



ウィローが興味をひかれるものは、人間の医学的症状と植物の世界、そして数字の「7」だ。こだわりが強く周囲と合わせられないウィローは、問題児とみなされ、カウンセリングに通うことになる。

カウンセラーの元に通ううち、他の学校に通う友達ができただったが、唯一の理解者だった養父母が事故死したという知らせが届く。

はゆまのすず 駅 鈴

久保田香里／作 坂本ヒメミ／画 くもん出版

奈良時代、人々は馬に乗って国から国へと報せを伝えていた。小里は、馬をひいて使者の道案内をする「駅子」にあこがれている。女は駅子になれないと言われるなか、若見という男だけは小里の夢を応援してくれた。

駅長だった祖父が亡くなると、長の座を狙う仲間裏切られ、一家は駅家を離れることになった。夢をあきらめて故郷を去った小里だったが、ある日、若見と再会する。



エベレスト・ファイル

マット・ディキンソン／作 原田勝／訳 小学館



ライアンは、ボランティアとしてネパールの僻地に医薬品を届けることになった。途中、人里離れた村に住むシュリーヤという少女に出会い、エベレスト遠征に行ったまま戻らない友人のカミを探してほしいと頼まれる。

何日間も歩き続け、ようやく探し出したカミは、一生直らない体のマヒを負っていた。ライアンは、遠征に参加した理由と山での出来事をカミから打ち明けられる。

【 担当：宮崎（本館：資料係） 】